結成20周年
新たな大躍進に向け出発！

日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番

99.4.26 No.4955

中江・水野候補 堂々当選

速報		
船橋	中江昌夫	2152票
勝浦	水野正美	741票

全組合員の力でかちとった勝利

中江さん、水野さんは堂々の当選を果たした。勝浦では11時過ぎには水野さん当確の報が伝えられ、船橋でも午前1時に中江さん当確の報が伝えられ、両候補の事務所は歓声で包まれた。

この勝利はまさに全組合員の努力の結晶によってかちとられたものだ。動労千葉と地元支援者の力がひとつになって実現した大きな勝利である。

われわれは結成20周年の今年、新たな飛躍をかけて、結成20周年記念集会を開催し、99春闘では二波のストライキに起ちあがり、そして直ちに船橋・勝浦での総行動に突入した。

この1～4月の総決起・総行動は、まさに動労千葉の団結力・底力をいかんなく発揮するものであった。船橋・勝浦市議選の勝利は、新たな飛躍をめざすわれわれのひとつの到達点である。

困難な状況を突破した船橋市議選

中江選挙闘争は、極めて困難な状況から出発した。年末から年始という一番重要な時期に、医療ミスの結果と思われる病気での中江候補の入院・手術、政治不信・政治家不信が蔓延するなかで新人候補が乱立し、実績よりも目新しが判断の基準となってしまう状況、しかも同じ連合町会内から保守系の新人候補がPTAをバックにして立候補することなど、選挙戦は当初から非常に厳しいものであった。

しかし、中江選対の不眠不休の努力はこうした状況を突破し、せり上がりに勢いを増していった。町会をはじめとした地元支援者や推薦労組の奮闘も特筆すべきものであった。中江候補は、連日各駅頭や辻々で演説を行い、真正面から政策を訴えた。とくに新安保ガイドライン－周辺事態法と真正面から闘うことを呼びかけ、名前の連呼と票の取りまとめのみに奔走する他候補とは全く違う選挙戦を展開した。そして最後の一週間は、こうした力がまさに一体となってついに困難な状況を打破し、誰もが勝利を確信するところまで到達した。やるべきことを全てやり尽くしてかちとった勝利である。

中江候補は祝勝会の席上、「この勝利を出発点として、船橋の夜明けをつくりあげたい」と固い決意を表明し、夜中にもかかわらずかけつけた多くの支持者から大きな拍手がまき起こった。

今回の勝利は、これまで四回の選挙とくらべても特筆すべき大きな価値をもつ勝利だ。

JR総連の破壊策動突破し高位当選

水野市議選は、この間の日刊動労千葉でも提起してきたとおり、JR東労組・革マルが関東動員の革マル分子を投入し、選挙に名を借りた動労千葉・国労の組織破壊攻撃をしかける状況と真正面から抗してかちとられた大きな勝利である。

勝浦では、在住者を中心とした組合員の文字通りの総決起・総行動が実現された。革マル分子が投入されればされるほど我が陣営の怒りの声は増大し、八位という高位当選が実現されたのである。（詳報次号）

この勝利をステップとして

われわれは、この二つの市議選での勝利をステップとして直ちに新たな闘いに起ちあがらなければならない。

国会では明日にも日米新安保ガイドラインの衆院強行採決が予想される現状だ。本部は、船橋・勝浦市議選での各支部の奮闘に心より敬意を表しつつ、新たなる闘いへの総決起をものである。

ガイドライン関連法－戦争法案を廃案におい込もう。また国鉄闘争も正念場を迎えている。国労執行部は「国鉄改革法承認」の大会決定を強行し、それに抗する現場組合員の苦闘がつづいている。われわれは夏季物販運動を軸として、国鉄分割・民営化攻撃との闘いの原点を全国に訴えて歩かなければならない。

全力で新たなる闘いに起ちあがろう。闘いの渦中で、「新しい世代の動労千葉」をつくりあげよう。

動労総連合 定期中央委員会
● 四月三〇日(金) 一三時
● 千葉市民会館
◎ 委員・傍聴者の結集を！